

# 小学校英語 Just Now

## 英語表現に触れる頻度を 高めるカリキュラム —モジュール導入 その2 授業と成果

松宮 奈賀子 Matsumiya Nagako  
(広島大学大学院教育学研究科)  
清水 由美子 Shimizu Yumiko  
(広島県安芸郡海田町立海田小学校)

### 1. はじめに

海田町は平成26年度より高学年でのモジュール授業を導入しています。前号では、モジュールのカリキュラムと環境整備を紹介しました。本号では、モジュールの授業とその成果を紹介します。

### 2. モジュールの授業の様子

#### (1) 単元の構成

モジュール授業を導入するにあたり、今まで行ってきたような時間をかけたコミュニケーション活動も大切にしたいという思いから、単元の最後に45分間のじっくりとコミュニケーションを図る時間を設定し、その活動に向けてモジュール授業で語彙や表現を学習していくという単元構成にしました(図1)。

#### (2) モジュールA・Bと単元末の活動

モジュールA(20分)では、指導内容として基本的な語彙や表現の慣れ親しみを目標とする活動を設定しました。*Hi, friends!*(文部科学省)のリスニングや様々なチャッツ、カードやICT教材を用いた語彙や表現の練習を行い、コミュニケーションや自己表現に必要な基礎的な表現力を体験的に養っていく活動を行いました。

モジュールB(25分)では、交流活動や発表、コミュニケーションゲーム、アルファベットを書く体験等、モジュールAで学習したことを活用したコミュニケーションや自己表現を主とする活動を行いました。

そして、単元の最後にはじっくりとコミュニケーションを図る時間(45分)を設定し、スピーチやグループでの発表、他学年との交流授業などを行いました。

Dream 5-3 好きなものを伝えよう

<単元計画(5時間【1~4時】8モジュール+ (5時) 1時間)>

時	目標と主な活動	目標	評価規準	評価方法
1	日本語と英語の音の違いに気付く、好きなものを表す表現を知る。 ○好きなものを表す表現を知ろう。 ・[Chant] バナナじゃなくて banana 『バナナじゃなくて banana チャッツ』より ・「先生の好きなものを知ろう」 ・「好きなものを表す言い方を知ろう」 ・キーワードゲーム	○	・日本語と英語の音の違いに気付いている。	行動観察 振り返りカード分析
2	○自分の好きなものを言ってみよう。 ・[Chant] マラソンじゃなくて marathon 『バナナじゃなくて banana チャッツ』より ・[Listen 1] だれが何を好きなのか、線で結ぼう。(p.16) ・「自分の好きなものを言ってみよう」 ・「友だちの好きなものあてゲーム」	○	・自分の好きなものを言っている。	行動観察 振り返りカード分析
3	好きなものを尋ねる表現に慣れ親しみ、好きなものや嫌いなものについて、積極的に伝え合おうとする。	○	・好きなものや嫌いなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしている。	行動観察 振り返りカード分析
4	○好きかどうかをたずねる表現に慣れよう。 ・[Chant 2] Do you like apples? (p.16) ・「好きかどうかをたずねる表現を練習しよう」 ・「Who am I?」クイズをしよう。 ○友だちにインタビューしよう。 ・「インタビューの練習をしよう」 ・「友だちにインタビューしよう」 ・「インタビューした内容を紹介しよう」	○	・「Who am I?」クイズをしよう。 ・友だちにインタビューしよう。 ・「友だちにインタビューしよう」 ・「インタビューした内容を紹介しよう」	行動観察 振り返りカード分析
5	I like ~、などを使って、積極的に自分が好きなものを紹介しようとする。 ○自分が好きなものを Show&Tell で紹介しよう。 ・「わたしの好きなもの(Show&Tell)」	○	・自分が好きなものについて、積極的に紹介している。	行動観察 振り返りカード分析

<第1~4時>

#### モジュールA(20分) <語彙・文の練習>

- ・カードやICT教材を用いた語彙や表現の練習
- ・チャッツ ・リスニング ・文化の紹介
- ・先生との応答 ・ペア練習 など

#### モジュールB(25分) <簡単な表現活動>

- ・友達との交流活動 ・短い発表 ・表現の練習
- ・コミュニケーションゲーム
- ・インタビュー活動 ・書く体験活動 など

<第5時(単元の最後)>

#### じっくりとコミュニケーションを図る時間

- (45分) <表現・交流・コミュニケーション>
- ・グループ発表 ・スピーチ ・Show & Tell
  - ・下学年とのクイズ大会、英語お楽しみ会 など

図1 5年生 Dream 5-3 単元計画表(抜粋)

### 3. ふり返りカードの工夫

平成25年度までは毎時間児童の自由記述によるふり返りを行っていましたが、時間がかかる一方で、児童が自由に感想を書くため、めあての到達を十分に見とれないという課題がありました。そこで、めあてとそれに対応するふり返りの視点を設定した1単元1シートの「ふり返りカード」を作成、活用しました(図2)。ABを通してめあてに対して自分どのように活動したかを、Grade A～Grade Dまでの到達度を示し、モジュールBの時間に自己評価するものとししました。単元の最後には、3つの観点別目標(「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気づき」)に対するふり返りを◎○△×で自己評価し、児童の言葉でのふり返りもできるよう、自由記述の欄を設けました。

外国語活動 ふり返りカード		6年 組 番 名前 _____	
<b>Dream 6-5 友だちを旅行にさそおう</b>			
めあて	① A 月 日 B 月 日	いろいろな国について知ろう。いろいろな国について説明しよう。	
ふり返り (自由記述欄に◎をつけて)	Grade A	世界の国の名前や、その国の特徴などに <b>いろいろ気付き</b> ることができた。	
	Grade B	世界の国の名前や、その国の特徴などに <b>気付き</b> ることができた。	
	Grade C	世界の国の名前や、その国の特徴などに <b>少し気付き</b> ることができた。	
	Grade D	世界の国の名前や、その国の特徴などに <b>気付き</b> ることができなかった。	
めあて	② A 月 日 B 月 日	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現を知ろう。行きたい国について尋ねたり言ったりしよう。	
ふり返り	Grade A	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現が <b>よく分かった</b> 。	
めあて	④ 月 日	おすすめのツアーを紹介しよう。	
ふり返り (自由記述欄に◎をつけて)	Grade A	<b>自分の思いがはっきり伝わるように工夫して</b> 、おすすめの国について発表することができた。	
	Grade B	<b>自分の思いがはっきり伝わるように工夫して</b> 、おすすめの国について発表することができた。	
	Grade C	<b>自分の思いが伝わり、気配りされた</b> が、 <b>ほとんど</b> おすすめの国について発表することができた。	
	Grade D	おすすめの国について発表することが <b>できなかった</b> 。	
<b>Dream 6-5 をふり返って</b> (◎ ○ △ × で自己評価しよう)			
自分の思いがはっきり伝わるように工夫して、おすすめの国について発表したり聞いたりした。			
行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れた。			
世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付いた。			
<活動を通して気づいたことや感想、友だちや自分のよかったところ>			

図2 6年生 Dream 6-5 ふり返りカード(抜粋)

### 4. モジュールによるカリキュラム改善の成果

前号で紹介したように、平成25年度終了時点での外国語活動の評価の3観点に対する児童の自信の自己評価を調査したところ、「慣れ親しみ」への肯定的評価が他の2観点より低い結果でした(表

1)。しかし、モジュール導入後の平成26年度終了時点では、9割を超す児童が課題であった「慣れ親しみ」を含め、3観点全てで肯定的評価をしていました(表2)。

表1 平成25年度終了時点の児童の自己評価

肯定的評価をした児童(%)	
第5学年	
コミュ	87.1
慣れ親しみ	71.8
気付き	84.4

表2 平成26年度終了時点の児童の自己評価

肯定的評価をした児童(%)		
	第5学年	第6学年
コミュ	94.8	95.4
慣れ親しみ	93.2	94.1
気付き	98.1	96.0

※コミュ：コミュニケーションへの関心・意欲・態度  
慣れ親しみ：外国語への慣れ親しみ  
気付き：言語や文化に関する気付き

また、モジュールの導入により、指導者が効率的な指導、評価をより意識するようになり、「英語を通じて」テンポのよい授業をすることへの意識が高まったことも大きな成果でした。

さらに、評価において、ふり返りカードで3観点の到達状況を児童が自己評価する項目を設けたことで、指導者が3観点の見とりをきちんとできるようになったという変容も見られました。

### 5. 今後の課題

JALT(日本人専科指導員)の先生はAll Englishで授業を進めていますが、T1の学級担任については、英語使用量の個人差が大きい実態があります。研修を通して英語指導力の向上を目指すことが現在の課題となっています。

また、モジュールでは授業時間が短く、休憩時間なしで他教科と切り替わることとなります。そのため、意識の切り替えが難しい側面もあります。20分外国語活動+25分他教科という組み合わせだけでなく、20分外国語+(25分+45分)の他教科など、組み合わせる授業が細切れにならない工夫をするなど、進めやすいモジュールの在り方を探ることも今後の課題です。